ふるさと歴史散歩

〔第115回〕 府中村の食文化　年中行事と食べもの

◆七夕祭り

日本の古い言い伝えに、来臨する神のための衣づくりとして選ばれた神女が、人里はなれた水辺につくられた棚で機織りをした、とあり、これが「棚機」と言われた。

また、平安時代の上流社会では、中国伝来の星祭りの乞巧奠（竿に糸をかけ願い事を祈ること）や織女・牽牛の行事が行われていた。これに日本固有の棚機津女の信仰が結びつき、七夕となった。技芸や書の上達、悪霊や汚れの退散を祈り、七夕笹を川に流していた。

府中村でも五色の短冊に願い事を書き、竹の笹に結びつけ6日の宵から飾り、7日の夕べに川や海に流していた。

昭和30年頃から公害等で川へ流さなくなった。

◆チャチャボコチャン

7日の夜には仁保・青崎地区で行われていた「チャチャボコチャン」を見に行く人が多かった。

これは、赤い色紙の短冊や大漁旗を船に飾りつけ、猿猴川をにぎやかに漕ぎ回る祭りで、笛や太鼓の音色から「チャチャボコチャン」と名付けられた。昭和10年頃まで漁村に伝わっていた。

◆井戸替え

府中村（明治21年～昭和12年）では、生活用水として、井戸や共同水場を利用していた。「井戸さらえ」とも言い、井戸に溜った泥を取り除き、塩でお祓いをしていた。

◆夏越し祭

大晦日（12月31日）の下期の大祓に対し、6月30日、上期の大祓として行われていた。現在は7月30日に行われている。田植え後の「泥おとし」とも言われ、夏を元気に越す健康祈願でもあった。多家神社の境内に、疫病を祓うと信じられていた茅（カヤ・チガヤ・ススキ）で輪を作り、その周りを、茅の人形をもって8の字にくぐっていた。このことから「茅の輪くぐり」とも言われている。

村では、宮司や世話人が人形の札（男は黒・女は赤）を家族数（牛馬も含む）だけ配布した。その紙札で「病気をしませんように」と入浴で清めた体をさすり、また「賢くなりますように」と頭をさすり、賽銭を包んで、お宮参りをする。

◆七夕のごちそう

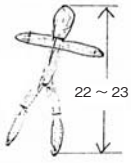
井戸替えの後、夏のごちそうとして、鯛ソーメン、きゅうりなま酢、なすの酢みそあえ、バラずし、ぼたもちなどを楽しんでいた。

府中町文化財保護審議会委員
秋山　榮子

夏越し祭の茅の輪とくぐり方

神社の境内に備えられたカヤの人形を持って、心に念じながら、茅の輪を３回８の字にくぐり抜ける。

茅の輪



カヤの人形

正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター（八幡四丁目 1–1）　☎ 286–3266

ごみの特別収集

午前８時30分までにごみステーションに出してください。

７月15日（月／祝）	普通ごみ（月・木曜日地区）
	有価物　（月曜日収集地区）

※環境センターへのごみの持ち込みは受け付けていません。

●有価物は品目別に収集します

品目別に順番（新聞・雑誌、ダンボール、衣類、ビン・缶・金属類の順）に収集します。後から出されたごみは収集されません。ごみは、品目別に離して置いてください。少しでも多くの有価物を再商品化、再資源化するために、ご協力をお願いします。

●雨の日のごみの出し方は

❖新聞・雑誌、ダンボールは、袋の中には入れずに、ひもで縛ってください。雨にぬれてもかまいません。

❖衣類は、雨にぬれるとカビが発生しやすくなり、再生利用できなくなりますので、袋の口をしっかりと縛るか、天気の良い日に出してください。

冊子「平成25年度家庭ごみの正しい出し方」

次の場所で配布しています。

役場（2階住民課、4階環境課）、環境センター、府中公民館、南公民館、福寿館、南交流センター、くすのきプラザ、ふちゅう情報プラザつばき館（イオンモール広島府中内）

ごみの不法投棄は、犯罪です！
不法投棄を目撃した人は、警察に通報してください。

ごみを出す時間に気をつけてください！
前日の夜や早朝に出すとカラスが見つけて荒らすことがあります。